

●題名

2016年7月10日日曜 阿武隈川南沢

●参加者

飯野(リーダー)、新海、落合、細野、荒井、若林、小玉、松村(記録)

●概要

7月の会山行は沢登りである。近年、会山行の沢登りには参加者が多く、行き先の選定に困るのであるが、今年は阿武隈川の南沢・白水沢の2班に分けることにした。直前のキャンセルが相次ぎ、担当の飯野には苦勞をかけて申し訳なかった。

甲子温泉を起点とした阿武隈川流域には手ごろな沢が複数ある。一里滝沢・大白森沢も加えると、集中山行の場所として利用価値が高いであろう。同じことが谷川や奥秩父にも言えそうだ。

今年の梅雨は雨がすくなく、この日も快晴だった。岩や巻き道も概ね乾いており、他パーティーも入渓していたので、心理的に気楽な遡行であった。ただ、岩が脆かったり、泥壁が崩れている箇所があるので、時期や天候によっては難しい遡行になると予想される。

30代のメンバー(1人を除く?)で前泊して酒盛りをする。大いに盛り上がるが、それだけに翌日のダメージが大きかった。朝起きるのが本当につらい、いつの日か、遡行せずに帰宅してしまいそうで怖い。前泊地は綺麗なトイレがあり快適であった。齋藤の選ぶ場所には外れがない。

当日出発組と合流し、7時ごろ甲子温泉を出発する。阿武隈川へは明瞭な踏み跡をたどる。

F1から初級者のためにロープを出す。F2は左岸から高巻きしたが、斜面がグズグズで悪かった。根っこが露出した木に全体重を預ける場面があり緊張した。滝を登ったほうが心理的に楽かもしれない(残置ハーケンあり)。大滝には複数のハーケンとFixロープが残置してあったので、その横を気楽に登った。下部が滑りやすいので、ロープを出した方が無難だろう。奥の二俣を左に行き、そのまま沢型を詰めると茂みの中に突入し、少しの藪コギで山頂付近に出る。13時前であった。

ほぼすべての滝でロープを出した割には早く遡行できた。我々が先頭グループだったので、手が空いた者を先行させたのが、遡行時間の点に関してはよかった。ただ、時間優先で、単なるガイド山行になってしまった感があるので、反省したい。本当は、会の総合力を向上させるような練習山行にしたいのだが…、まだ力不足であると感じる。

